

## 第1回 益城町子ども・子育て会議

### 1 開催日時

平成 25 年 12 月 3 日(火)

13 時 30 分～15 時 30 分

### 2 会場

益城町役場議会棟総務常任委員会室

### 3 出席委員(順不同)

出席委員 14 名

飯星るみ委員、岡元聡委員、木村由美子委員、重浦悦子委員、高林秀明委員、田中晴美委員、谷川淳子委員、中野浩幸委員、深草安世委員、福島基紀委員、福山佐代子委員、森田恭子委員、吉川孝敏委員、渡辺まゆみ委員

欠席委員 1 名

益満善寿委員

### 4 議事次第

1.開会

2.委嘱状交付

3.町長挨拶

4.委員等自己紹介

5.議長、副議長の選出及び承認

6.議事

(1)子ども・子育て会議の運営について

(2)子ども・子育て支援制度及び、子ども・子育て支援事業計画について

(3)益城町の現況・施策について

(4)計画策定に係る調査について

(5)その他

7.閉会

## 1. 開会

---

### ■事務局

開会、配布資料確認

## 2. 委嘱状交付

---

### ■事務局

最初に委嘱状の交付をいたします。第1回目ですのでみなさん全員に交付しますが、代表で高林委員に受け取りをお願いします。

### ■町長

委嘱状交付

## 3. 町長挨拶

---

### ■事務局

町長は所用のため、ここで退席いたします。

## 4. 委員等自己紹介

---

### ■事務局

今日は初顔合わせになりますので、自己紹介をお願いしたいと思います。お手元の【資料1】の委員さんの名簿の順でお願いします。

#### ○高林委員

熊本学園大学社会福祉学部教授をしております高林と申します。大学からこの会議にぜひ出なさいと言われ参りました。私は熊本市内に住んでおりまして町外ですが、益城町の子ども・子育て環境の向上に微力ながら力を注ぎたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

#### ○木村委員

NPO 法人子育て応援おおきな木の木村でございます。つどいの広場とファミリーサポートセンターの運営をいただいております。よろしくお願いいたします。

#### ○森田委員

今年から民生主任児童委員になりました。広安に住んでおります森田です。よろしくお願いいたします。

#### ○中野委員

飯野小学校の中野と申します。飯野小学校も町の当局のおかげで、来年度から学童クラブが開設に至るようになりました。そういうことを含めて、子育てのしやすいまちになるようにと思っています。よろしくお願いいたします。

#### ○深草委員

第2幼稚園園長の深草と申します。この会議の中では一番内容を考えてもらいたい立場にいるのかなと思いつながりながら参加しております。よろしくお願いいたします。

○谷川委員

町立第1保育所所長の谷川と申します。広安校区の福富にあります。いろんなお子さんをたくさんお預かりして私たちにできることを精一杯させていただき、共に頑張っているところです。よろしくお願ひいたします。

○福島委員

社会福祉法人ひろやす会ひろやすにし保育園の園長福島です。社会福祉法人ひろやす会は広安校区、広安西校区に面しており、合計 300 人の子どもたちをみております。ものの考え方は、各委員、保護者の方、保育士、保育者、地域の方などいろんな考え方があると思いますが、みなさんで考えてよりよいものができたらいいなと思っています。よろしくお願ひいたします。

○福山委員

広安小学校あすなろクラブの福山と申します。学童については、学童連からいろいろ話をいただいているのでそれを持ってこちらに来たいと思います。よろしくお願ひいたします。

○吉川委員

益城町 PTA 連絡協議会の吉川と申します。今年から会長を仰せつかり、まだよくわかっておりませんが、どうぞよろしくお願ひいたします。

○飯星委員

第2幼稚園保護者代表の飯星と申します。よろしくお願ひいたします。

○岡元委員

第1保育所保護者代表の岡元と申します。男性の視点でどう子育てに接していけるか等の質問や発言をしていきたいと思っています。よろしくお願ひいたします。

○重浦委員

ひろやすにし保育園保護者代表の重浦と申します。微力ながら力になれるよう頑張りたいと思います。よろしくお願ひいたします。

○渡辺委員

学童保育連絡協議会保護者代表の渡辺まゆみです。今、広安小学校あすなろクラブの学童の保護者の会長をさせていただいております。福山先生から話がありましたが、学童保育連絡協議会の5つの学童クラブの中で少しずつ話し合いを進めて参りましたので、そのことでみなさんとお話をしていきたいと思っています。よろしくお願ひいたします。

○田中委員

公募委員から選ばれました田中と申します。男の子2人の子育てを終了しておりますが、孫が今年産まれました。経験を生かして孫育てをしていかないといけないのですが、町長の次に私が高齢だと思ひます。今まで経験したことがお役に立てたらと思ひ公募しました。よろしくお願ひいたします。

■事務局

公募委員の益満さんは、今日はどうしても来られないということで欠席させていただきたいとの連絡が入っておりますので、みなさんにお伝えします

(事務局自己紹介)

(計画づくりの委託業者紹介)

## 5. 会長、副会長の選出及び承認

---

### ■事務局

条例の第4条第1項で、会長、副会長を置くということで規定されておりますので、会長、副会長を選出させていただきたいと思っております。みなさん方の互選となっておりますが、いかがいたしましょうか。

### ○委員

事務局に一任します。

### ■事務局

事務局一任という意見が出ておりますが、みなさんよろしいですか。では、事務局から指名したいと思っております。会長を高林委員に、副会長を中野委員にお願いしたいと思っております。

### ○委員

(拍手)

### ■事務局

会長に高林委員、副会長に中野委員で決定いたします。

議事に入る前に資料の確認をさせていただきます。

#### 会次第

資料1 益城町子ども・子育て会議委員名簿

資料2 益城町子ども・子育て会議条例

資料3 子ども・子育て会議の運営について

資料4 子ども・子育て支援新制度について

資料5 子ども・子育て支援事業計画について

資料6 今後のスケジュール

資料7 益城町の現況について

資料8 計画策定に係る調査について

資料9-1、9-2 子ども・子育て支援事業計画ニーズ調査票案（就学前児童・就学児童）

資料1-5 子ども・子育て支援事業ニーズ調査票（国の示す雛形）

【冊子・パンフレット等資料】おしえて! 子ども・子育て新制度

それでは、ここから先の議事の進行については高林会長にお願いしたいと思います。

### ○議長

よろしく申し上げます。先ほども申しましたが、私は熊本市に住んでおりまして、上の子どもが9歳で小学3年生、その下の5歳、1歳の子どもは保育園に通っております。上の子は1歳から保育園に通っているため、保育園との付き合いは10年くらいになります。熊本市では育成クラブと言います学童には小学3年の長男が1年だけ通いました。今は野球のクラブチームに入っています。子ども・子育てについては当事者でもあるので関心を持っています。大学では地域福祉を教えています。障がいのある人、高齢者、子どもたち、地域にはいろいろな人がいます。その中で子どものことにも取り組んでおります。先ほどの町長の話の中にも「思っていることは何でも言ってください」とありましたが、ざっくばらんにご意見をいただき、よい計画の内容にしたいと思います。

それでは議事の(1)子ども・子育て会議の運営について 事務局からご説明をお願いします。

## 6. 議事

---

### (1)子ども・子育て会議の運営について

#### ■事務局

(事務局説明)

#### ○議長

まず条例がありまして、資料3のところがこの会議の役割です。たいへん重要な役割を担っております。これから作っていく5年計画の内容に関わる大きな役割です。今回の子ども・子育て支援法では当事者の意見を聞くことが求められております。これは、これまでにない一歩踏み込んだことだと思います。みなさん、いろんな形で当事者だと思いますが、保護者会の代表の方など活発にご意見をいただけたらと思います。事務局の説明に対し何かご質問などありましたらおっしゃっていただきたいと思います。

『益城っ子未来プラン行動計画』を作られています、今回のメンバーの参加はあったのですか。後ろに名簿は付いていますが、保護者代表等はみえないようです。

#### ■事務局

5年前のことは詳しくはわかりませんが、掲載されている委員のメンバーのみなさんで何回か協議して作っていただいております。

#### ○議長

法律の上でも子育て当事者の意見をしっかり聞くようになっておりますので、こういう形では初めてということでしょうか。これまでの法律に基づく計画を踏まえながら、さらに発展させていこうということです。のちほど益城町の現状の説明をいただきます。岡元さんいかがですか。

#### ○岡元委員

子育て支援にかかる需要とはどういうことですか。

#### ○議長

後で説明があるかと思いますが、保育園が足りているとか足りていないとか、保育園に入りたいという方がたくさんいれば、対応できるように増やさなければならないし、それほど伸びなければ足りない分だけ増やせばいいし、保育園や幼稚園だけでなく新しい形態のサービスも考えられるのではないかと、調査をするのもニーズを捉えるため。ニーズにどう応えていくか、供給していくか。内容をここで決めていくので、かなり重要な場になると思います。たくさん作りすぎてあとで保育園が余るというもどうかですし、少なすぎても町民のみなさんの子育てのニーズに応えきれないことになるし、そのあたりをここで議論していくことになります。

#### ○福島委員

基本的には国の施策として保育園整備は重要と言われておりますし、この会議でも保育園の整備、認定子ども園とのつながり、幼稚園の制度的なものがメインになってくると思います。新たな保育園の整備などどうしてもお金がかかるので、現行の何が問題なのか、問題ではない部分も変えることばかりに力点が置かれ、今のよいところがおろそかになってしまうと、戻すのは難しい。保育園や幼稚園という単純な枠組みの中だけで、全員が同じ知識を持っているわけではない中でやるのは

難しいところもあると思います。公立幼稚園、私立幼稚園もそうですが、体制を維持する側としては真剣に考えてもらいたいという一方、安易にニーズがニーズがとなると、保育園を作っても作っても待機児童がいなくならないということに対して認識をもっていただきたいというのが運営する側の意見です。

○議長

新しい法律ができ制度が変わっていくことになるが、現行の制度の中でよいことはもちろん今後も引き継ぐことは大事でしょうし、現行の制度に問題があれば改善していくことも大事。確かに戻すのは難しいから注意していかないとはいけません。保育園を作っても作っても待機児は増えている現状。いろんな理由はあると思いますが、一つは経済的に厳しいので親の共働きが増えている。女性の就業率は高まっている。しかも子育て世代の。子どもの数は減っているのに保育園の需要は高くなる。そのあたりをしっかりと状況を確かめながら進めていくことはおっしゃる通りだと思います。他にありますか。

○深草委員

ニーズと聞くと親の意見という感じがします。実際は子どもたちが預けられて生活していく。親の意見しか反映されないという危険性があると思います。子どもたちが長時間預けられているということは、果たしてよいことなのか。内容まで踏み込んだニーズにならないといけません。潜在ニーズを調査で調べるということは親だけの気持ちになることを危惧します。

○議長

今は長時間保育という方向に来ています。土曜日も日曜日も保育園をあげるというふうになっている。特に都市部ではそう。子どもにとって果たしてよいことなのかどうか、子どもが直接意見を言うにくいという面もあります。そのあたりを私たちがこの場で、子どもたちの思いをどう組み込んでいくか、現場にいると感ずることがありますか。

○深草委員

今は幼稚園におりますが、以前は保育園に勤めておりました。長時間保育になると子どもたちはいらいらしてくる。幼稚園の子どもたちは保育時間が短い。就労しているお母さんたちには書類を出してもらって4時半まで公立ではみえています。お母さんたちという時間が長いことで愛情をいっぱい受けています。時間ではないかもしれませんが、おかあさんたちが働いていない分余裕があるから、子どもたちが落ち着いているし気持ちの育ち、思いやりやさしさの育ちが保育園の子より幼稚園の子がある。保育園が悪いというわけではありませんが、長時間になればなるほど、お母さんと子どもが絆を結ぶところが希薄になり、子どもたちの欲求不満も見られると思う。そこらへんを踏まえて考えていただければと思います

○議長

それぞれの思いがあると思います。私も共働きで、子どものこともあるけど、早く迎えに行かないと園の先生たちに迷惑をかけるというのがありますね。夕方になると先生たちも帰る時間だし、先生たちへの負担もあるかなと思います。いろいろな意味で長時間にならないようにしています。

○重浦委員

今の話はわかるのはわかります。子どもとの時間を大事にする。それはその家庭それぞれでやることだと思いますが、幼稚園は仕事をしていないおかあさんが基本。保育園は仕事をしている人。愛情の注ぎ方、接し方はその家庭、家庭であると思います。議題の話に戻ると、保育園と幼稚園のニーズはかわってくると思います。親の意見だけになってくるのではないかということもありますが、

保護者あつての保育園、幼稚園というのも捨てられないと思います。ここであげたニーズを、どこまでもついでいけるのか。どこを基準にもついでいくのか、どこまで反映されるのかがわからない。

○議長

個々の保育園の改善や要望もあるでしょうし、益城町全体のというのもあります。それがどこまで反映されていくのか。待機児の保護者はここにはいらっしゃいませんが、今、通っていらっしゃる親はそれなりの思いがあつて、あとで数字が出できますが結構な数いらっしゃいます。全体を見ながらどこまで反映していくのかがこの場になる。立場によって思いはさまざま。思いを出しながらすり合わせながら進めていきたいと思つています。今日のこの会議の中で1人1回くらいは発言していただきたいと思つています。

続きまして、議題の(2)子ども・子育て支援制度及び、子ども・子育て支援事業計画について 事務局をお願いします。

## 6. 議事

### (2)子ども・子育て支援制度及び、子ども・子育て支援事業計画について

#### ■事務局

(事務局説明)

○議長

新しい法律による新しい部分を含んだ制度になるので、わかりにくいところもあるかと思つますが、資料4、5を中心に見ていただきまして、1年3か月後には新しい制度が始まるということです。それに向けて計画を作っていくということです。みなさんいかがですか。

○森田委員

どうなるのでしょうか。

○議長

資料5、イメージ図があります。子ども・子育ての需要が円で横に広がっているものがありますが、これがニーズをつかみなさいということでこれからアンケート調査をすることになります。保育が必要な子、必要ではない子、それが3歳以上と未満で分かれていきます。それぞれに必要なものが違うので利用希望を聞いていこうということです。上の箱の「子どものための教育・保育給付」がこれまでの施設型の幼稚園保育園。これに認定こども園が加わってくる。右側は地域型保育給付と呼んでいますが、小規模な保育、家庭的保育というような、家庭で保育をするようなもの、訪問型や事業所内が新しく、施設型、地域型に分かれています。下の箱の「地域子ども・子育て支援事業」は、これまでもされていますが地域子育て支援の様々な事業、一時預かりや乳児の家庭全戸訪問、延長、病児・病後児保育、放課後児童クラブ、こういうのが地域の支援事業ということで話合っていく内容になります。これから現状の利用、利用希望を調べていくわけですが、どのくらい希望があるのか。現在でも待機児がいらっしゃる。益城町としてこれから増やしていくという計画もあるようです。その先どうなるのか。その先を見通してもっと増やしていかないといけないということもある。各町、財政も厳しいのでさらに町立を増やすということも難しい。あるいは認可保育園でお願いするのか。その場合はどういう形態にするのか。保育園は株式会社でも今の制度でも入れるんですよ。そういうところが、もし熊本市内の株式会社が益城町で保育園をやりたいといった場合

にどうするのか。今までの認可よりもハードルが低くなっているのです、比較的簡単に要件さえそろっていれば株式会社で保育園は作れます。提供体制の確保というのはそういうことも含んで、どのようにニーズに応えていくかということもここで議論していくことになると思います。

資料5では産後の休業、育児休業というのがあります。熊本市の子ども・子育て会議では企業代表や労働組合の代表なども入っています。計画については任意ではありますが、そういうことも検討しなさいとなっています。親も忙しい、労働時間が長い、土日も仕事があるというので、ワークライフバランスと言いますが、職業生活と家庭生活の両立も、本来雇用環境に関わる重要なことですが、そういうこともここで話し合いなさいとなっています。あくまで任意となっていますが、町長が国に陳情しているという話もありました。労働基準法を守っているのかという話にもかかわってくる内容です。

○福山委員

学童保育でいろんな意見が出ています。今回こんなカタチでいろんなことを考えながらやっていますが、今まで学童保育は親からの保育料と国や県、町からの補助金で運営していました。補助金の部分が、この会議で決められたことで入ってくることになるのでとても重要。現状で削られる部分があれば運営が成り立っていかない。そこをきちんと見据えていかないといけない。みなさん保育需要に関して議論されると思いますが、学童も重要なので考えていただきたいと思います。

○議長

もちろんです。

○渡辺委員

益城町には5つの学童があります。法の改定で2年後に学童が変わるので、指導員の先生や保護者会の役員さんを集めて中央小学校でお話しをしています。町の業務としての位置づけをされていますが、国から補助金が半分入ってきて、残りが親の保育料です。同じくらいの値段でやりくりしています。補助金が極端に減ったら保護者の負担が大きくなるので経営が難しくなっていくかと思っています。

○福山委員

学童保育はニーズ調査がとても重要だと思っています。ニーズにあわせて2年後、3年後を見据えた形で施設を増やすというのは十分にあるので、来年あたり待機が出るのではないかとこのころまで来ています。保育園を卒園された方がほぼそのまま上がってくるし、これに加え、学校に上がったというので幼稚園のおかあさん方が仕事をされるということもあるので、ニーズは増えるのではないかとと思っています。ニーズ調査はしっかりやっていただきたいと思います。

○議長

あとでニーズ調査のたたき台の説明もあると思います。

○福島委員

町や県、国からの補助金で運営費の一部は出ているということですが、保育園も同じように、保護者から直接もらうのではなく国や県、町から大部分をいただいて、それから保護者が町に入れてもらって、その合計で成り立っています。国からの運営費は8時間分しかもらっていませんが11時間みることになっている。11時間以上が延長保育代として、各保護者からもいただくし、おやつ代として町から助成金もいただく。そういう細かい部分まで各委員さんにご理解していただくのは難しいと思う。会議はさささと決まってしまうので危惧しているところです。なおかつ、町の人口は33,000人程度で横ばいを続けています。菊陽町や大津町みたいに上っていったらいいわけではな

い。町としてのスタンスを知りたい。増やせばいいというものでもない。少子高齢化が進んでいるというのは待ったなし。

○議長

保育園は8時間が基本。でも実際は11時間、それ以上で初めて補助金が出る。ではその3時間はどうするのか。そこは十分保障されていない。新しい制度でその部分はどうなっていくのかというのもある。国の補助金が減らされるとますます8時間から11時間の間が厳しくなる。益城町の将来像というご意見もいただきました。そういうことを見据えながら、どれだけ供給が必要なのかと連動してくる。益城町に大きな開発が進むとなれば若い人たちがたくさん入り、状況はずいぶんかわってくる。大事なご意見をありがとうございます。

では議題(3)益城町の現況・施策について 事務局お願いします。

## 6. 議事

### (3) 益城町の現況・施策について

---

#### ■事務局

(事務局説明)

○議長

表「保育需要の状況」の平成24年度の( )は何ですか。

#### ■事務局

( )はここの保育所じゃないと行かないという人です。他の保育所を紹介しましたが、そちらにはいかなと言われてた人で、その方々は別枠で掲載させていただきました。去年の4月には待機児童0とカウントしております。

○議長

去年、一昨年くらいから申し込みが増えてきているということですね。年齢構成を見ると、0歳、1歳が多いですね。新しく100人程度申し込みが出てきても、それぞれの年齢になりますので、この50人前後の子どもたちが一度に入れるわけではないのでニーズは高まっています。0歳、1歳で入りたいという保護者が多いということですね。現況をご説明いただきましたが、みなさんから何かありますか。

○谷川委員

この会議は保育所の待機児童をどうするかではなく、子育て支援＝子育ての親支援でもあると思います。私たちは0歳から生後何か月というお子さんからお預かりしていますが、その子どもたちが成長していく段階でいろんな環境の変化が続いていきます。満足いく子育ての環境、保育環境が提供できているかという疑問はあります。0歳の子どもたちが1歳、2歳…、そして修学していく。先ほど学童保育の話が出ておりましたが、さらに充実させていく必要があるのではないかという問題が出てきます。極端な話、広安小、中央小は早くから学童保育があり、ニーズも高かったのだろうと思いますが、そういう都市圏部のみならず子どもたちを手厚く支援していく、親たちの支援も充実していくのが課題かなと思います。保育現場にいて思うのは、いろんな家庭環境の中で頑張っておられる方がたくさんいらっしゃる。私たちは子育ても一段落した世代ですので、今になって思うこと振り返ってわかることがたくさんあります。数字をみると待機が今後も続くのかなと思うと、企業

も子育てをしていく世代へのフォローが必要だと思います。保育所を増設してもイタチごっこ。今後のことはわからないが、大切な子どもたち、これから歩んでいく子どもたちによりよい環境を整えていくためにこの子育て支援会議があると思います。いろんな問題を考えないといけないと思いを新たにしました。

○議長

育児休業がなかなか取りにくい。新聞などで国が発表している取得率は9割となっている。でもそれはほとんどが正社員。正社員のうちの何割取っているかという数字と言っている。働いている女性で出産前にやめる人が6割程度いる。働き続けている4割のうち、産前産後の休みだけとって辞められる方もいる。その残りの9割が取っているということ。実際は全体の3割くらいになると思います。実際は7割は休業を取られない。非正規パート・アルバイトの方はとても望めない。そういうことを見越して、国の指針では子ども・子育て会議で話し合ってくださいと入れています。企業に意見を言っていくのは難しい面はあると思うが、ここで合意が取れればメッセージとして伝えていくことも必要なと思います。そこがないと0歳、1歳の待機児童がますます増えてしまう。

○深草委員

待機児童は増えていますが、町の出生率はどうなっていますか。

■事務局

少しずつ、就学前の子どもさんは増えてはきています。

○木村委員

おたずねです。平成25年度の待機児童は166人となっていますが、今年、無認可保育所に入ったところには補助金が出るようになっていきますよね。待機の人はどこかしら無認可に行ってるのでしょうか。

■事務局

166人というのは、保育所の申し込みをして一定の要件を得て入れない人。その中には認可外保育所に行ったり、おじいちゃんおばあちゃんがみているかもしれません。今、把握している数字は、認可外の補助金を出している子どもの数は50件くらいです。

○議長

認可外保育所の数と定員はわかりますか。

■事務局

熊本市に結構あるので数はちょっとわかりません。町には認可外は3つ、4つあります。該当すれば町外の認可外にも補助金を出しています。ここ2~3年の特徴は0歳、1歳の申し込みが多い。今年の申し込み状況をお話しますと、去年の同時期より全体で100人多くなっています。その中で0歳、1歳は極めて多い。0歳から預けて奥さんも働かないといけない経済状況なのか。

○議長

子育て世代は年収でいうと過去10年間で平均100万円くらい減っている。それを補うためにパートにでも出て何十万円でも補おうとはなってきましたよね。大黒柱が今までのよう給料をもらえなくなっている。平均だから減少幅が多い人はもっと少なくなっているし、ちょっと厳しいですね。

■事務局

0歳、1歳になると保育所の入所基準が厳しい。どこの保育所も入られる人数は限られているので、待機児が増えるのだと思います。物理的な基準はすぐにはどうしようもできない。

○吉川委員

0歳、1歳というのは益城町に限ってなんですか。

■事務局

よくわかりませんが、全国的だと思います。

○議長

都市部とその近接地域では全国的です。

○木村委員

0歳、1歳は受け入れる体制側の問題もあるんでしょ。3人に1人の先生を置かないといけないのか。

○田中委員

私が子育てしてきた時代とはすごく違うと、お話を聞きながら感じています。私も育成クラブを利用し子育てしてきました。孫が今月、産まれまして産休に入りまして、そのあとたぶん待機児童になるんじゃないかとお嫁さんが言っていました。もし入れなかったら、私は預かると言っています。若いおじいちゃん、おばあちゃんは今たくさんいらっしゃるんで、それを利用しない手はないんじゃないかと思います。

○議長

保育園の送迎はおじいちゃん、おばあちゃんという人は多いですね。

○田中委員

特に益城町では、そこまで都会に出て働いている方が多いわけではないので、近くにおじいさん、おばあさんがいる家庭は多いと思います。

○議長

病気のと看、病後時はおじいちゃん、おばあちゃんにお願いするというのも結構あると思います。

○田中委員

おじいちゃん、おばあちゃんを保育所や学童などで活用できるシステムを作ったらどうかと思います。

○議長

やりたいという人もいらっしゃると思います。

○木村委員

そういう方をお願いするために、ファミリーサポート事業というのがあります。

○田中委員

それは、私も資格を持っています。国がやった第1回目の資格を取って待っていましたが、益城町で登録したら1件も来ませんでした。

○木村委員

町の事業でやっているんで、町の事業に登録していただけるとお願いできると思います。浸透していないんですかね。

○田中委員

知りませんでした。

○森田委員

広報でもPRはしています。

○田中委員

益城町ということで考えると、私は広崎ですがどちらかといえば熊本市のほうが近い。わざわざこっ

ちまで来てというのはなかなか。広崎は広崎でということではできないのですか。

○木村委員

あったときにはおうちで、あと希望されるおかあさんでうちに来てくださいます。広場が空いているときはそこでということもあります。いろいろご相談はあります。登録している事務所が木山になります。

○田中委員

待機児童さんをファミリーサポート事業ではできないんですか。

○木村委員

お金がかかるんですよ。

○田中委員

1時間 500 円か 600 円くらいでしょ。それは保護者負担ですか。町からの補助はないのですか。保育園を1つ建てるよりも、乳幼児の数もどうなるかわからないというときにはこっちを支援する方法のほうが安くあがりませんか。

○議長

福島委員からも意見がありましたが、保育ママをもう少し拾っていこうという声もあがっています。それもよく検討しないと、それが本当にいいのかどうかというもある。施設を建てなくても保育士の資格を持っている人はいっぱいいらっしゃるので、そういう人に参加してもらい工夫しながら、というのはあると思います。

○中野委員

学童の待機児童の増加は今後、考えられるんだろうなと思います。本校の場合は、学童を設立するまでの希望者はなかったのですが、昨年度まではできなかった。だが、本校でも今年は4ほど増えている。0歳、1歳の待機児童の数、そして年度ごとの待機児童の数が増えていることを考えると、学童もあわせて考えていかないといけないと思いました。

○議長

益城町の施設の場合、スペースに余裕がありますか。私の子どもが利用している熊本市はものすごく狭くて、国の基準を下回りぎゅうぎゅうの学童も多くあります。

○福山委員

ぎりぎりです。校区によってはいっぱい、西校区では面接をしてお断りしている状況です。来年度は広安校区もそうなるのではないかと考えています。施設の基準もここで決まってくると思うんですよ、その辺も検討していかないといけないと思っています。指導員の数もです。少人数のところは補助金が少ない。その部分もかえていかないといけないと感じています。今度2か所新しく設置されるようなので、そのところも考えていかないといけないと思います。

○議長

他にありますか。では(4)計画策定に係る調査について 事務局説明をお願いします。

## 6. 議事

### (4) 計画策定に係る調査について

#### ■事務局

(事務局説明)

○議長

量がかなり多く、国が必ず盛り込みなさいと示してきているものと任意のものがあります。独自という項目を盛り込んでいるところもあります。任意の中でいらぬものは省く。益城町では独自にこういうことも聞いてみたいということもできるようです。今日ここで中身についての議論というのは難しいと思うけど、今の段階でこういうことを入れたいということを出していただければ、今日でなければ、また 20 日までに子ども課にということですね。

■事務局

就学前は量が多いので、回答される方が嫌になられるかもしれないので、なるべくコンパクトにまとめたいと思っています。任意はなるべく省くほうがよいのかと考えています。就学前 1,000 人、就学児 1,000 人に配布し、回答率が 5 割あればよいかと考えています。帰ってから、じっくり読んでいただき、(必)は必ず載せます。他にこういう質問を入れてほしいというのがあれば 20 日までにお願いしたいと思います。

○議長

この調査は大事だと思いますので、みなさんぜひご意見をお出しください。全体として、サービスの種類と量を聞くというのが中心なので、サービスの質はあまり聞くような内容にはなっていないようです。保育園、学童保育を利用している人に、質的な面でご意見をいただければいいかなと思いましたが、調査の目的からいうと量の見込みを抽出することだから、たくさんのは入れられない。何か気付いたことはありますか。

気になったのは 1 週間当たりに土日にフルタイムで働いている人もいますが、そのあたりを聞くところはありましたか。保育園の知り合いで月曜日だけ休みというお父さんがいて、奥さんも土曜日仕事があるので毎週保育で、日曜日はお母さんだけがみているという状況もあります。

○福島

11 ページにあります。

○議長

サブ回答で問 17-1「月に数回、仕事が入るため」となっていますが、月に数回どころか必ず入るといふ人がいらっしゃる。利用したい理由をここで聞いているんですが、そもそも就労実態がどうなのかというのを聞くことも必要かなと思います。そもそも土日は毎週必ず仕事という家庭もある。それと、同居家族も配偶者の有無はわかるが、おじいちゃんおばあちゃんは同居しているのかどうか、最近家族形態も多様化しているのでいろんな方がいらっしゃる。3 ページのところ、子どもの人数や配偶者の有無はわかるが、世帯の全体像がわかるところはありますか。よくご覧になっていただいで出していただいて、それをまとめて 2 回目の委員会で提案していただき、こういう調査票でいきたいと思います。アンケートも含めて全体として何かご意見があればお願いします。

○森田委員

保育所からあがられた方がすべて学童に入られるなら、近い将来、学童も待機が出てくるのは確実だと思う。制度を新たにすることは大切なことだと思います。

○飯星委員

保育所にしろ幼稚園にしろいろいろあるので真剣に考えていかないといけないと感じました。

○吉川委員

そもそも子育て支援をするためのものであるというのはわかるが、0歳、1歳のお子さんまで保育園に預けなければならない現状、ある意味、育児放棄というのものもあるのではないかと思います。そういうところを含めて、ただ受け入れるだけでなく、親の責任ということも大切にしていこうがよいかなと思いました。

○岡元委員

学童保育についても、しっかり考えていかないといけないと思いました。

○重浦委員

上の子は高学年なので学童に行っていませんが、広安西小には2つあり、それぞれ仕組みが違います。経営者の意向ですか、やり方が違うらしく、軽く派閥があるような話を聞きます。同じところに建っているのにそうなのかなと思いました。仕事をされていて預けているところなのに、それでも役員決めが大事らしく、重たいことをさせられる長の人、そしてその下に5~6人またいるみたいな感じで成り立っている。会長はしたくないのでやめて、おじいちゃんおばあちゃんに預ける人がいるようです。

○福山委員

運営は保護者会が行います。保護者会の意向や指導員のやり方で保育内容がかわってきます。保護者会で運営していくにあたり、会長をはじめ会計から書記からすべて運営されているので、とてもたいへんだと思います。ふつうの会社を運営しているようなものです。結構な補助金もいただいて、保育料をいただいて、そこで運営をしていかないといけないので、その運営を少しでも町で責任をもってもらう方向で考えていただきたいと思っています。

○福島委員

熊本市みたいですね。

○重浦委員

知り合いで会計をされた人がいるんですけど、会計があわないままの引き継ぎだったらしいです。何もしたことがない人がくじだけで「あなた会計」となるのは問題があるようです。

○福山委員

それはいけない。会計は会計の先生と相談しながらきちんと会計監査していけないとたいへんだと思います。学童に対する町の位置づけを明確にしていけないといけないと思っています。

○議長

学童保育とか育成クラブとか、運営している方々は苦勞しておられる。行政も関わってこられたところもあるが、今まではあまり光があたってこなかった部分もあると思います。国も含めてここに光を当てていくようになるといいなと思います。

## 6. 議事

### (5) その他

○議長

他にご意見がなければ今日はこれで終わりたいと思いますがよろしいでしょうか。

○福山委員

アンケート用紙(案)をいただきました。学童連に持ち帰って協議したいのですが、見せてもよろしいですか。

■事務局

結構だと思います。

○議長

傍聴したいという人がいたら傍聴できますか。熊本市は傍聴しています。

■事務局

次回から流します。

○議長

では今日はこれで終わります。事務局よろしいですか。

## 7. 閉会

---

■事務局

2 時間を超えました。長時間ありがとうございました。今後、みなさんのお力をおかりして、しっかりと事業計画をつくっていきたいと思っております。今後ともご指導ご協力を賜りますようお願い申し上げます、本日の会議を閉会いたします。お世話になりました。